

明治時代の渡船

郷土史家 西羽 晃

明治10（1877）年の『三重県統計書』によれば、桑名付近の川の渡船は次のように記載されている。渡名（川名 経達地名）の順に書く。

福島渡（揖斐川 福島～十日外面）、福島渡（揖斐川 福島～西外面）、

桑名渡（揖斐川 桑名～葭ヶ須新田）、上之輪渡（揖斐川 上之輪新田～西外面）

下深谷部渡（揖斐川 下深谷部～千倉）、下阪手渡（揖斐川 今島～下阪手）

油島渡（揖斐川 福永～油島新田）、赤地新田渡（揖斐川 桑名～赤地新田）

前ヶ須渡（揖斐・鰻江・木曾川 桑名～前ヶ須）

前ヶ須渡（木曾川 押付～前ヶ須）、福原新田渡（木曾川 新所～福原新田）

加路戸新田渡（木曾川 殿名～加路戸）、福豊新田・源緑山渡（木曾川 横満蔵～源緑山新田）

殿名・鎌ヶ地渡（木曾川 大新田～鎌ヶ地新田）、葭ヶ須渡（木曾川 葭ヶ須新田～近江島）

川原欠新田渡（鍋田川 見入新田～川原欠新田）、富島渡（鍋田川 富田子新田～富島新田）

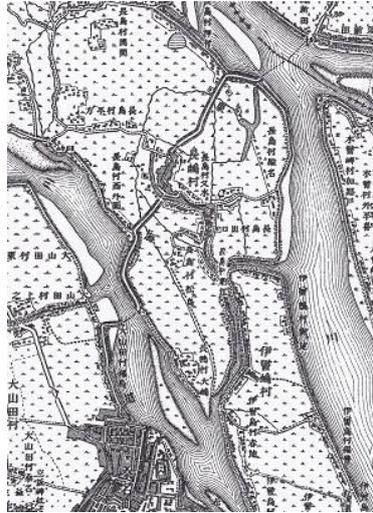
加稻渡（鍋田川 和泉新田～加稻新田）、藤里渡（鍋田川 稻荷新田～藤里新田）

松永渡（白鷺川 鴈ヶ地新田～松永）、鎌ヶ地渡（鰻江川 源部外面・駒江～鎌ヶ地新田）

これらはすべて民営であり、有料であった。そのうち、桑名から揖斐川を経て、鰻江川で長島を横断して、木曾川に出て前ヶ須（現・弥富市）に至る**前ヶ須渡**は明治初期の東海道で、木曾三川の改修工事が始まっていない時期なので、揖斐川と木曾川を結ぶ鰻江川が重要な航路として使われていた。渡船賃は1人2銭、馬は無料、車は4銭だった。渡船数は記録されていない。

その他の渡船で主なものは福島～十日外面の福島渡（渡船数6隻）、桑名～葭ヶ須新田の桑名渡（渡船数3隻）、桑名～赤地新田の赤地新田渡（渡船数6隻）、

押付～前ヶ須の前ヶ須渡（渡船数5隻）であった。



明治22年の地図（上記）では福島渡と前ヶ須渡には渡船の記号が記されている。二つの渡しの途中である長島町下町には明治15年建立の道標が建っている（写真）。この地図では揖斐川と長良川とは分流しておらず、鰻江川も健在である。しかし、明治20年から始まった木曾三川改修工事で鰻江川も閉鎖されて、東海道の前ヶ須渡は廃止となって、福島から揖斐・長良川を渡り、長島を陸路で横断して押付から木曾川を渡り、前ヶ須に至るコースが、明治25年4月に新東海道となった。同26年4月には「東海道」の碑が押付に建てられて、現在も国道1号の尾張大橋畔（長島側）に建っている（写真）。



長島町下町の道標



尾張大橋畔の「東海道碑」